

## 200年以上続く棚田と農山村の景観

—愛媛県松野町 奥内地区遊鶴羽集落—

道後平野土地改良区 近田昌樹

### 1. 重要文化的景観「奥内」地区の概要

「奥内の棚田及び農山村景観」として、2017（平成29）年に奥内地区全域370.3haが国の重要文化的景観に選定された。1999（平成11）年には「奥内の棚田」として、農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されている。

その景観は、田は谷に、宅地は尾根に、畑は宅地周辺と山際にと、自然の理にかなった立地で、重要文化的景観指定に向けた調査報告書<sup>1)</sup>では「与えられた自然条件のキャパシティに合わせた柔軟性のある暮らし方の積み重ねによって現れた景観」とされ、江戸時代から引き継がれた制度・慣習と、住民の測量・土木・農林業技術の習得に裏打ちされた200年以上維持・継承された景観と評価されている。

地元では、棚田百選の認定を契機に、棚田や棚田と一体となった集落の保存・振興に向け、高齢化に対応する管理作業の軽減を図るため、景観に配慮した軽自動車の通行可能な幅に狭めた農作業道や石積み畦畔のコンクリート目塗りなどの棚田整備を行うとともに、集落あげて「棚田まつり」を開催するなど、次代への継承も視野に活動を行っている。

### 2. 奥内地区の地理的位置

四国の西部で愛媛県と高知県の県境に接する松野町の東部に位置し、町の中心集落の「松丸」から約5kmにあり、一山越えれば高知県である。水系は四万十川上流域に当たる。松野町は隣接する下流域の旧西土佐村も経済圏として、伊予と土佐の国を結ぶ交通の要衝として栄えていた所である。

棚田は、奥内地域に展開し下組・本谷・榎谷・遊鶴羽の4集落に分かれる。標高は120~275mで農家数28戸、水田面積14ha（約300枚）で構成される。ほかに畑地10haが農地で、人口は70人となっている。

### 3. 景観の特徴

奥内地区の景観構成は、天然生広葉樹（常緑および落葉広葉樹）のアラガシ、コジイ、コナラ、アベマキなどが50%を占め、県内有数の天然生広葉樹林が広がっている里山と、小尾根に立てられた住居群が特徴



写真-1 遊鶴羽集落の上部  
（写真右手に復元された水車小屋）

的とされ、住居位置は自然災害から生命と財産を守る基本である防災、減災を最大限に考慮して代々引き継がれている。

農地は住居より下方の溪谷河川に向けて開かれ、棚田は里山に涵養された安定的な水を利用する形で開かれ、農業は棚田での稲作を主とする。

集落は、江戸時代の古墓の1699（元禄12）年や1760~1762（宝暦10~12）年の下札帳をもとに、17世紀末までには成立したとされ、江戸時代から現在まで200年以上住民により守り続けられ形成されたもので、尾根から谷へ向けて、広葉樹林と住居群と棚田が配された景観に特徴がある。

### 4. 農用地の特徴

耕作面積は明治期と比較すると、集落のない谷筋や集落のある谷筋の上部を中心に面積が減少している。山林でも雑木林や草地として使われていたのが、薪炭・草肥・飼料の不要化などにより林地に戻っている。明治初期では、耕作地が田畑あわせて22ha、山野利用地は草山100ha、柴草山9ha、松山8ha、雑木山46haもあり、30戸の集落を維持するには、この規模の里地里山が必要とされたのであろう。

農地所有は広域分散所有という特徴があるとされ、1876（明治9）年の段別畝順帳、1879（明治12）年の山林原野畝順帳、1883年以前と推定される地籍図と

現在を比較すると、尾根を越えた分散的な土地所有状況や1軒当たりの耕地面積などの共通性が確認でき、集落を超えた分散所有と分散耕作などの生業活動が認められている。

### 5. 棚田の保全整備

棚田保全での特筆すべき事業は、1957(昭和32)年に行われた「農地交換分合」と1999~2000(平成11~12)年度の「棚田地域等緊急保全対策事業」、2001年度の「ふるさと水と土ふれあい事業」(以下、後者2事業を併せて「棚田整備」という)と2000年度からの「中山間地域直接支払制度」である。

農地の集団化を図る「交換分合」は、地区全体の32%の田畑で行われ現在の所有のベースとなっているが、区画整理を行っていないため不整形の棚田のままである。地元では事業記念品として湯飲みと杯が作られるほどの画期的な事業であった。

棚田は一般的に田越し灌漑であるが、遊鶴羽地区では、耕作者のブロックごとに水を引いており、耕作者を同じくする上下の田は田越しでも、所有者が異なる場合は基本的に田越しは行っていない。交換分合により、まとまったブロックを同じ耕作者が耕作することになったことが要因ではないかと考えられている。

1999年からの「棚田整備」は、同年7月に選定された「日本の棚田百選」、同年度の愛媛県ふるさと水と土基金を活用した「ふるさと発見奥内棚田の星ワークショップ」による集落点検とふるさとづくりを受け、棚田を保存する目的で、過疎高齢化のなかでも継続的な耕作を容易にする管理労力の低減と獣害防止を中心にハード整備を行ったものである。表-1に事業内容を示す。

表-1 棚田整備(奥内全域、平成11~13年度)

	数量	内容
区画整理	5カ所, 0.57 ha	まち直し
耐久性畦畔	6,176 m	コンクリート
農道整備	11カ所, 1,072 m	幅2m, 新設と既設道舗装
用排水路	246 m	コンクリート
集水路	250 m	冷水防止壁(裏溝工)
獣害防止柵	5,300 m	猪防止電気柵
水車小屋	1カ所	1基
案内板	1カ所	
事業費	10,100万円	

(事業実績報告書より作成)

棚田ごとに軽自動車や耕うん機が容易に入れる農道(表紙写真中央部など)整備、聞き取りで多くの地域住民が最も骨の折れる農作業と語る「畔塗り」作業を軽労働化する耐久性畦畔、石積み畦畔の特徴である石積み最下段からの冷湧水による生育不良や湿田を改良す



写真-2 まち直して大きくなった圃場(遊鶴羽)

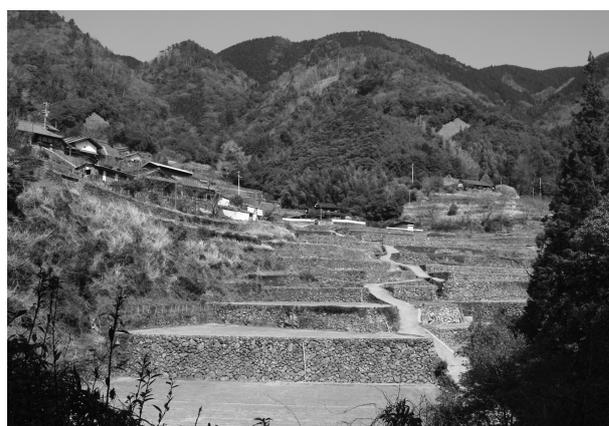


写真-3 棚田団地の中央部に作られた農道(遊鶴羽)



写真-4 棚田保全事業で行った各圃場のコンクリート畦畔(遊鶴羽)

る集水路の設置により、大幅な省力・軽労働化されたことによって農業の維持が図られることになった。

事業では、棚田景観を最大限に維持するように話を多く持ち、棚田の圃場整備は既存石積みを利用した圃場2枚を1枚にする「まち直し」や、上下3枚を中段の高さで1枚にする「段抜き」工法、農道は2m幅で擁壁は石積み、コンクリート畦畔は30cm幅にするなど、拡幅や整備は最小限にとどめるよう配慮がなされた。



写真-5 段抜き（石積みが2段積みと高くなった，榎谷）

中山間地域直接支払制度は、今日まで保全活動の支援に役立てられている。

#### 6. 遊鶴羽地区（表紙写真）の棚田の形状

遊鶴羽地区の棚田は現状で約130枚ある。石積高さを1mごとに4段階に分けると表-2になる。3m未満が主ではあるが4m以上の箇所もある。

石材の大きさは、直径30cmを超える大きさが目立つ写真集落左手側と、拳大から20cm程度を多用する右手側に分かれる。大きい石は江戸時代からのもので、ほかは積替えによるものと推定されている。

#### 7. 住民による保全振興活動

景観保全活動は、棚田百選を受け、地域住民が1999年に「奥内棚田保存会」を結成し今日まで行ってきた。

2001年度には松山市の2小学校各50名が体験学習

表-2 遊鶴羽集落の石積高さ別比率

石積高さ	1m未満	1~2m未満	2~3m未満	3m以上
比率	5%	35%	41%	19%

（引用文献<sup>1)</sup> p.124の図から作成）

で訪れ、その後も松野町内の学校も総合学習の一環で来訪している。また町商工会と合同で2013年から「棚田まつり」を開催し、遊鶴羽の棚田を舞台に約千個のろうそく灯籠での棚田のライトアップ、オカリナの演奏、猪鍋と棚田米のおにぎりの販売などの催しが行われている。

#### 8. 棚田往訪案内

最後に、松野町外から奥内・遊鶴羽の棚田への交通アクセスを紹介する。松野町のホームページにも案内はあるが、ほかに自動車では、国道381号線を松野町方面へ、役場のある「松丸」集落北で東に折れ県道280号を2km行き、右折して2車線の大規模林道に入る。さらに5km行くと遊鶴羽集落の上部に至るルートが良い。進行方向右側に集落に下りる道の小さな案内板がある。

#### 引用・参考文献

- 1) 愛媛県松野町教育委員会：松野町文化的景観調査報告書3、松野町（2016）
- 2) 松野町：奥内の棚田及び農山村景観（2018）、<http://www.town.matsuno.ehime.jp/soshiki/10/1267.html>

## 水土を拓く 一知の連環一

企画・編集 農業農村工学会「水土を拓く」編集委員会  
発行 農山漁村文化協会

学会は「農業土木学会」から「農業農村工学会」への名称変更に関し、ビジョン「新たな〈水土の知〉の定礎に向けて」を策定しました。本書はこの〈水土の知〉を古代国家成立（飛鳥時代）から近代までの歴史的歩みを軸に、各地の農業の展開と国土の開発について、地域固有の水・土・里を「見きわめる」「使い尽くす」「見定める」「大事にする」「見直す」「見通す」「仲良くする」という7つの視点から整理し、これからの農業農村工学のあり方を探るものです。学会誌創立80周年記念出版事業として刊行されました。

体裁：B5判 360ページ 上製  
定価：4,628円（税込）  
会員特価：4,114円（税込）

申込先：公益社団法人 農業農村工学会  
FAX：03-3435-8494 E-mail：suido@jsidre.or.jp  
学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/